

## 編 集 後 記

2011年3月11日に未曾有の災害となった東日本大震災が起きました。あれから約1年となります。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表し、また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

阪神・淡路大震災では、死者の80%相当は木造家屋が倒壊し、家屋の下敷きになって即死したとされ、生存された方もけがされた方が多数おられ、当時1年目の整形外科医であった自分は、発症3日目に当地に医療支援で赴くことが出来、クラッシュ症候群やコンパートメント症候群など貴重な体験をしました。今回の東日本大震災では、津波による水死が死者の90%を超えるようで、外傷治療としては、初期よりも復興期にけがされた方への治療が多かったと思います。震災後の急性期だけでなく復興期にも、外傷患者さんのトリアージから治療まで、私たち整形外科医、特に外傷にかかわる医師の支援が必要と言えます。当会会員の中にも関わられた方が多数いると思います。ご苦労様でした。

今回の巻頭言は市立奈良病院四肢外傷センター長の矢島弘嗣先生に書いていただきました。「私たち整形外科医は骨だけのプロフェッショナルではなく、四肢を取り扱うプロフェッショナルなのである。とくに四肢の外傷を取り扱うのであれば、骨折から軟部修復までトータルに判断して、その再建を行うべきである。そういった意味においても、四肢の外傷を取り扱う整形外科医は必ずマイクロサージャリーの技術を習得する必要がある。」と書かれてあるように、日頃当会副代表の土田先生が提唱されていることの重要性を再認識させられました。

今回の教育研修講演は、第123回が『アキレス腱断裂について』の題名で、関東労災病院スポーツ整形外科の内山英司先生に、第124回が『外傷性腕神経叢損傷の診断・治療アルゴリズム』の題名で、小郡第一総合病院の土井一輝先生に講演していただきました。土井先生には、既発表の論文との著作権との関係で投稿はいただけませんでしたが、当日参加できた先生には明快なtext となると思います。ありがとうございました。

2012年2月 (畑中 渉)

編集係 畑中 渉  
辻 英樹

北海道整形外科外傷研究会会誌 第28巻

平成24年3月31日

編集・発行 北海道整形外科外傷研究会

代 表 佐久間 隆

事 務 局 札幌市中央区北11条西13丁目

市立札幌病院 整形外科内

(昭和60年3月2日 創刊)

印 刷 富士プリント株式会社